

4人の陶芸家から毎月新作が届く。オーナーの花井悦子さんは自宅でお花とスタンドグラスも教えている
—神戸市北区鹿の子台南町3で

お茶いただき、ゆっくり品定め



はんしんeyes

写真・文 山田哲也

49

中国縦貫自動車道・西宮北インターチェンジに近い、神戸市北区の閑静な住宅街に自宅のリビングを開放したギャラリーが二つある。
地図を片手に「小さな部屋・華遊」(神戸市北区鹿の子台南町3の20の8、078・0533・26580)を訪ねた。華遊は花井悦子さん(67)が「ボケ防止のために始めたギャラリー」(花井さん)で、今月オープン3周年を迎えた。表札に小さく「華遊」と書いてあるだけで、看板などは出ておらず、普通の住宅

住宅街のギャラリー



だ。リビングに案内されると、食器棚やテーブルの上に創作陶器が並んでいる。壁には仕事をリタイヤしたご主人が6年前から始めた水彩画が掛かっている。お茶をいただきながらゆっくり品定めができ、知人の家に遊びに来たような気分になさせてくれる。
展示しているのは花井さんの知人の陶芸家4人の皿や茶碗、花器が中心。価格も1000円から4000円程度で、普段使いできる器が多い。火、水曜日の午前11時から午後4時までオープン。
もう一つのギャラリー「一語一絵」(同区藤原台中町4の7の6、078・987・4996)は、とんぼ玉や吹きガラス、スタンドグラスなどを展示販売している。月曜日から水曜日の午前10時から午後5時まで(1月と8月は休み)。